

アメリカは自滅し、信頼と技術で 今、日本が世界の中心になった

中西 喜彦



一、はじめに

今年は戦後80年を迎えました。いまだにウクライナ戦争やガザ地区の惨状そしてトランプ大統領がイランへの爆弾の投下を命令するなど、戦火は止むことはありません。

80年前の6月福岡市の自宅で焼夷弾の投下を受け、翌日は幹線道路沿いの歩道に亡くなられた方々の死体が並べられているのを目撃しました。丁度小学3年生のときでした。今年米寿を迎えましたが、当時の怖さを出しと共に、現在の世界情勢を見て進歩がないあをつくづく思います。

また、一昨年岸田前首相が訪米時にウクライナへの援助を約束するとともに米国に我々は共にあると祝杯を挙げられたと聞きました。一方、最近石破首相が米国との関税交渉後の報告会で米国になめられてたまるかと発言されたと聞きました。日本国として考えた時なんとなく矛盾しているようですが全体的にみると理解できるような気がします。

前米国大統領バイデンの時代、今回はトランプ米大統領の時代です。同じ米国でも全く考え方の違う勢力が覇権を握っており、前述のような事象を理解するには歴史的な成り立ちや地勢的な成り立ちを知ることが必要であります。

二、世界の現状

現在、主要国として米国、中国、EU、ロシア、日本などが世界で認められています。特に米国はこの80年間世界に君臨してきま

した。

歴史的な視点からは19世紀はヨーロッパの時代、20世紀はアメリカの時代、21世紀はどうなるのかという瀬戸際に差し掛かりました。

歴史的にみると、日本は2600年余の歴史を持ち天皇を中心とした統一国家を維持してきております。これに対して米国は約240年間を大統領制で統治されています。

一方、中国は4000年の歴史といいますが、実際は戦後の1949年に中華人民共和国として設立された新しい国家です。

国力とは経済力、軍事力、外交力などが挙げられますが、それに加えて国家を統治する理念が大切だと思います。米国はヨーロッパで起こった民主主義、自由主義、博愛主義をもとに資本主義を発達させて繁栄を得てきました。

筆者は以前、落合莞爾氏の「金融ワンワールド」を読んで、ヨーロッパにおけるユダヤ系の人々の歴史を知りました。同氏の研究をみるとユダヤ人は、世界の金融を支配している種族です。

近世ではフランス革命やロシア革命を起こし、さらにイギリスの繁栄に寄与しました。さらに米国に一部移動し第2次大戦後はアメリカで完全に主導権を握っております。

三、食糧生産の方法の違い

筆者は、それぞれの民族の行動を知る目安として、狩猟、牧畜、稲作などの食糧生産方法による特徴が大きな影響を及ぼしていると考えています。筆者は、大学で畜産学の研究に携わった関係で、欧米への出張の機会も多く、日本の稲作文化との違いを痛感しています。

例えば、牧畜を主体にして食糧生産を行う

アメリカでは、たくさん牛を扱うため、個別の判定が難しいので、そのグループの栄養状態などを見るのに、競り市において、排出された牛の糞の内容を見て、牧野の栄養状態を推定し、間接的にその牧野で飼育された牛の栄養状態を推定します。わが国の競り市では一頭ごとに体系や栄養状態で評価をします。

日本では狭い田畑を丁寧に整備して耕作が行われています。同じ食料を得るにしてもかなり大きな違いがあり、人の考え方もその状況に左右されるように感じます。

一方、欧米の牧畜を主体とするやり方では、耕地が広いため、放牧するため移動しながら良い草地を探し、フランスでは、平地では乳牛、肥沃ではない平地では肉牛、傾斜地では羊やヤギなどとすみ分けて飼育しています。

気候的にみるとわが国は温暖地帯にあるため四季に恵まれており、二毛作をはじめならかの形で作物が生産できます。

これらの食糧生産形態も民族の性質に大きな影響を与えているように思います。

四、世界を動かしているもの

①日本人とユダヤ人

日本人は一つの国を2600年維持しています。縄文時代から考えると16000年前から住んでいます。

一方、ユダヤ人は少数民族として各地を移動して現在では米国で大きな勢力として力を発揮しています。

歴史的にもヨーロッパの各国例えばスペイン、ポルトガル、フランス、オランダ、イギリスなどユダヤ人が活躍した時代は国が栄えますが、寄生する国の国力が衰えるとユダヤ人も消えています。

このユダヤ人の正体については、落合莞爾氏の「金融ワンワールド」がくわしいです。さらに日本では田中英道氏の研究によると、弥生時代から平安時代まで5回にわたって大きなユダヤ人の集団が渡来していることが明らかになっています。7世紀ごろまでには日本人として同化しておりユダヤ人の名前は出て来ません。

現時点で、世界を俯瞰してみた時に科学的に先進国と言われる国の中にユダヤの名前はないですがいずれの国も大きな影響を受けています。おもしろいことに米国のユダヤは完全に米国を動かしてきました。

ユダヤ人の特性は前述のように金や名声を追い求めることに熱心です。現在の米国の衰退の様子をみると、ユダヤ系の人たちは国家の財政を超える財産を持ち、所属する国や人々を圧迫する立場にあります。

②大谷翔平選手の米国での活躍

大谷翔平選手が日米で高く評価されている理由について考えてみました。

まずは、技術の高さです。大谷選手は、打って良し、投げて良し、さらには走って良しと、多くの結果を残し、連日私たちを楽しませてくれています。しかし、彼の魅力はそれだけではないと考えます。大谷選手は、野球そのものに楽しさを見出し、富や名声を求めるのではなく、純粹かつ愚直にプレーしているように感じます。さらには、チームメイトやファン、道具やグラウンドなど野球に携わるすべてのものに敬意を示す姿勢は印象的であり、敵チームをも魅了しています。また、祖父・父・自分という3世代にわたって野球への価値観を共有していることも大きな点です。

彼の個人としての技術を高めるだけでは

なく、集団としてより良くしようとする取り組み姿は、日本の文化に由来する点が多いと思います。

③トヨタ自動車の戦略

トヨタ自動車は、無駄な在庫を抱えない「ジャスト・イン・タイム」という生産方式を取っています。さらに、使用される地元で生産し、その地元の経済発展にも貢献している点は特に評価されています。なおかつ社内的には各担当部局で常に技術や商業情報について最高の技術を求めるための論議を重ねています。

アメリカでは上司が自分の考えをもとに作業を進めるようですが、トヨタでは現場の作業員が意見を出し合って作業を進める事が社風になっています。またモニターライゼーションを生かして地域に密着した自動車づくりに励んでいます。最近、10年程前からヨ

ーロッパや米国において脱炭素的考え方が盛んになり電気自動車が推奨されるようになりました。これに対してトヨタはハイブリット車、水素車、さらには水で走る車などまで研究を進めてきています。欧米中においては、電池の性能が不十分のままに進めたために充電の所要時間が長い、暑熱や寒冷期における機能が著しく低いなど困難を極めています。今や、従来のガソリン車やハイブリット車に加えて、各地域に適したトヨタの多種類な燃料方式が見直されている状況です。

特筆すべきは欧米中で用いられているリチウム電池に代わって、固体電池が開発されたことです。これは貴金属の使用が少なく、使用時間も長く軽量です。

さらに、電池の研究を進めて、糸状で太陽光発電と蓄電を兼ねた電池を開発し、車体に張り付けたり、建物の壁に張り付けたりして

発電と蓄電が出来るようになってきました。

また、水素燃料車の一種として水の電気分解を行ってその水素を直接燃焼して動力源とすることができるようになりました。これが実現すると自動車だけではなく発電装置としても活用できます。

今や、トヨタグループは車だけではありません。今後さらに社会を動かしていくことになるでしょう。

五、アメリカの現状

戦後80年経って、現在の米国では経済力や人種の構成なども大きく変化してきています。終戦時は、自由と民主主義の普及や世界の平和を掲げて、世界を指導する姿勢を示してきました。しかしながら現在の米国は、世界経済の発展と各種民族の流入が多くなったことにより、グローバリズムを標榜する民主党とアメリカ第一主義を強く主張する共和党

とで国のあり方に対する共通の理念を持てなくなっています。その結果、政権が変わると極端な政策が打ち出され、朝令暮改の状態に順調な産業発展が難しくなっています。

特に戦後、石油を裏付けとしたドルが世界の大勢を占めてきましたが、技術の進歩によりいろいろなエネルギーが開発されてきます。例えば、米国の前政権では新しいエネルギーの研究開発を進めてきましたが、現政権では従来からの石油を中心としたものを押し進めようとしています。世界的にはこの2つの政策の是非が問題にされてきています。政治家は国の方向性や世界各国の調和を考えるよりも選挙対策に迫られ、利益集団の代表となっています。

筆者は戦後43年（昭和63年）に6か月間米国ウイスコンシン州立大学で研究することが出来ました。その時期すでに大学の駐車

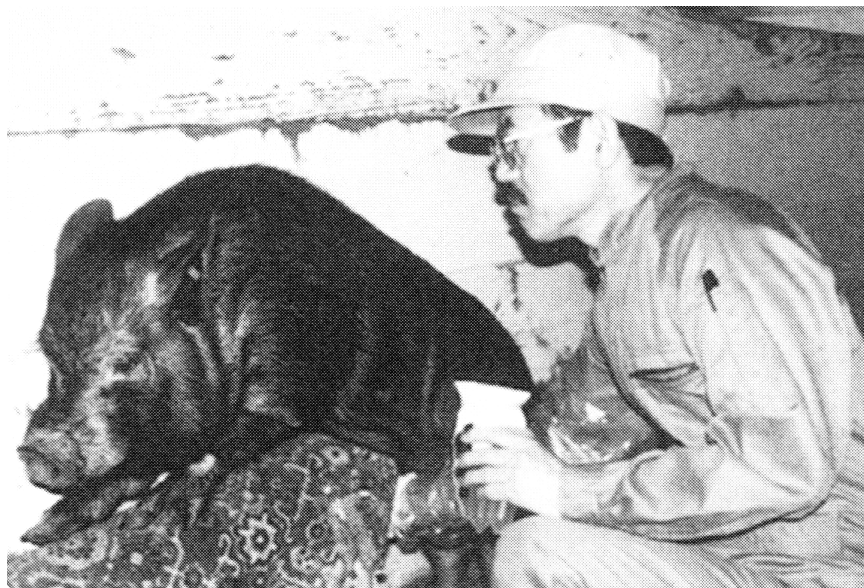
場は日本車が多く、金のない学生は中古のアメ車を利用しているのをみて驚いたことがあります。当時すでに米国は技術大国ではなくなっているとの印象を持ちました。自分の研究においてもすでに肩を並べていることを知りました。

その後、ソ連邦の崩壊が起こり、ロシアのエリツィン時代にロシア系のユダヤ人によってロシアの原油がイスラエル経由でクリントン政権に渡されたとの報があります。この時代からユダヤロビーを初めとする金融関係の活動が強化され富の一極集中が加速されています。グローバル化のもとにアメリカの産業が賃金の安い他国に移動し富の偏在が加速しました。

日本と米国が世界をリードするなかで、米国ではユダヤ系の人々が、民主党、共和党にかかわらず、政権中枢を支配しています。現在



ウイスコンシン州立大学の宿舎前にて愛車ボルボと（昭和63年8月）



研究用ミニブタ開発のための精液採取（昭和 63 年 8 月米国にて）



能「花月」（大濠能楽堂にて、舞っているのが筆者。63 歳）

では、米国のGDPの約9割が0・1%の人たちに配分されています。したがって、下層の人は十分な待遇が受けられず、社会が非常に不安定な状態になっています。この状態をみるとユダヤ系の人たちは経済力や科学的力には優れているが国民全体を統治する能力、例えば、他者を重んじる能力に乏しい。これが、ユダヤ人が国を持たなかった理由と考えられます。

六、日本文化の原点

日本は太陽信仰が主体であり、山や岩木を崇拜します。先祖を神様と考え天皇は最も長く続いた家長であります。ユダヤ人は鳥居や柏手お祓いなどの文化を持ち込みました。

田中英道氏は、その帽子と鬘みまげがユダヤ人の特徴そのものであることから古墳の武人埴輪がユダヤ人であることを発見しました。また法隆寺の仏像を見て、四天王などの高い鼻を

した顔がユダヤ人特有の顔と同じであると指摘しています。文献以外のいろいろな彫刻や各地の古墳から出土した埴輪などをもとに、ユダヤ人が5回にわたって渡来して日本人の先祖になっていることを明らかにしました。

現在の日本文化は室町時代に確立されたといわれていますが、田中氏は、お能の創始者である観阿弥、世阿弥もユダヤ人であると指摘しています。今までは中国から来た人と思われていましたが、全く違っておりました。筆者が本誌20号の「能は私の道標」で紹介しておりますので詳細は省略いたします。

能の内容は過去にあつた源氏物語や平家物語あるいは各地の風土記の主人公の活動を1人称で演じるという劇です。面や衣装などが美術品として残されています。また、日本語の標準語の作成に役立ったといわれています。江戸時代、他の藩士同士の会話で

話を通じない時に、能の台本である謡曲中の言葉で意味を通じ合ったという逸話が残っています。江戸時代、剣道と同様に能を藩士に教える家もありました。

七、終わりに

戦後80年の6月をもって日本は米国から経済的独立を達成できたと思います。カナダのアルバータで開催されたG7において新エネルギー問題を検討する会議にトランプ大統領がキャンセルしたのを機にG3としてカナダ、日本、ドイツによって米国を外した新しい交易の枠組みが相談されました。

これらの行程は国単位ではなく企業の業務の一環として行われたため米国政府が関与することもなくまたくまに完了しました。

その結果、この80年間の日本国の安定的な行動が信頼を受けてこの新しい体制が出来上がりました。

現時点で見るとユダヤ系の人は米国を主導してきました。主としてこの80年間はオイルダラーのもと金融力で世界を支配してきました。これに対して、日本は米国の唱える民主主義と自由主義と平等主義をもとに技術力を磨いて平和外交を続けてきました。

振り返ってみると米国の影響のもとに過ぎてきたことになりましたが、実質的にはユダヤ人の思想のもとに過ぎたことになりました。

しかし、米国は富の分配の差が大きいため、富の配分に外れた人たちは、麻薬や暴力に侵され、社会の混乱が大きくなっています。対外的には平和主義を唱えながら現実的には資源を奪ってきました。

米国の極端な関税をはじめとする規制を逃れて多くの国が日本を通じての交流を強めてきています。

これらは日本が勧誘したわけではなく、80年間の活動を評価して集まって来たものです。

ユダヤ人は、非常に抽象的な考えが強く、金銭を始め宗教や芸術や哲学や科学や技術の功績を残してきました。しかし、その性質は個人性の強さがあつて金銭や名誉とかに思考するので、国家を形成するよりも、大きな国の財政面で活躍してきています。日本が永年の統一国家として持続してきたのは、縄文人の集団性に加えてユダヤ人の経済力や武力などが加わり天孫系を補佐してきた歴史によります。

今後、米国で長期研究が困難になった研究者の米国シリコンバレーからの来日や研究施設の日本への移転が増加するものと思われる。エネルギーも太陽や水から直接エネルギーを得たり、人工知能や自動運転の技術な

どが発達したりすると思われます。

しかし、科学技術は進歩しても、人類が世代交代を行っても、人間そのものは変わらないでしょう。かえって科学技術にたよって身体は退化するかもしれません。日本は万世一系の歴史を持ち、世界の中で長い歴史を持ち、古い史跡を持ち、現代まで豊富な文化を持っています。これらの世界に実際に接触してその実態を感じてもらいたいものです。

筆者は、日本は「軍事力」ではなく自国の信頼性や技術力をもって世界に一層貢献できると考えます。戦争のない世界にするためには、もつと日本的な知恵と技術を世界に供給すべきです。今こそ、日本人皆が自信をもつてこれらを世界に示し、中心的な役割を果たしていくときではないでしょうか。

（鹿児島謡曲連合会前会長、鹿児島大学名誉教授、炉ばたセイ談会会長）